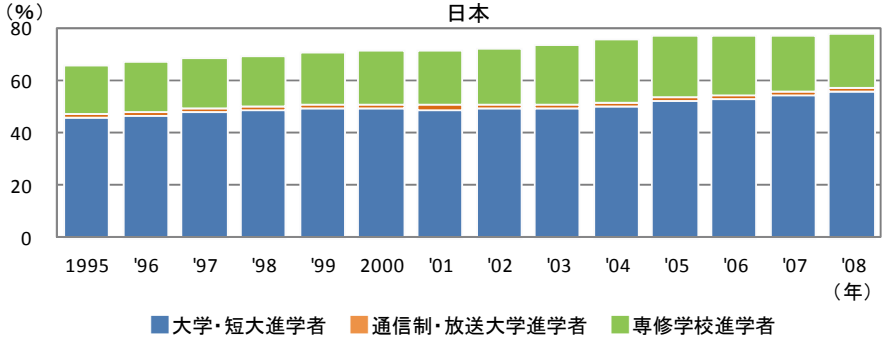
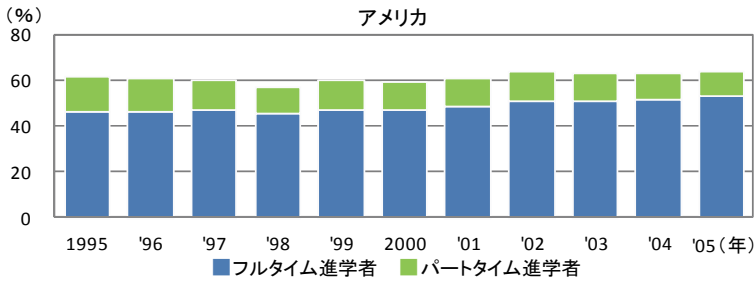


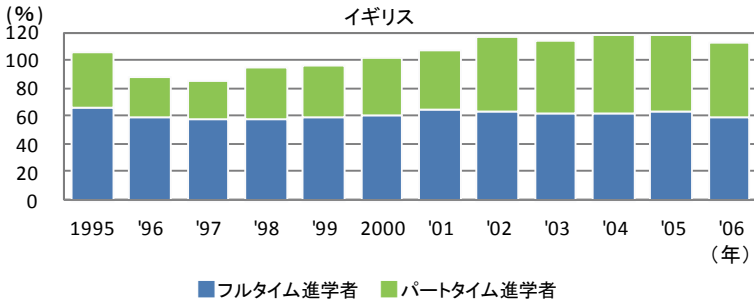
8-1 高等教育機関への進学率



- ▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第8-1-1表 高等教育機関への進学率:日本」(p.237)参照。

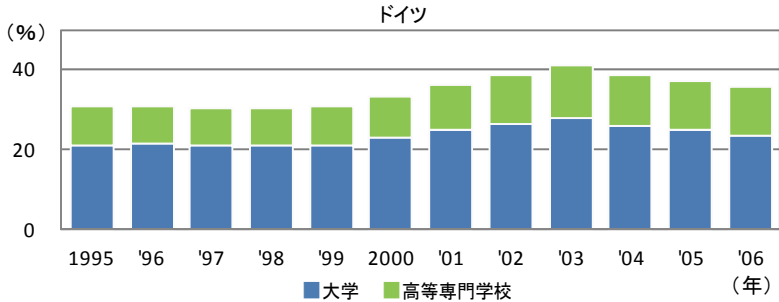


- ▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第8-1-2表 高等教育機関への進学率:アメリカ」(p.237)参照。

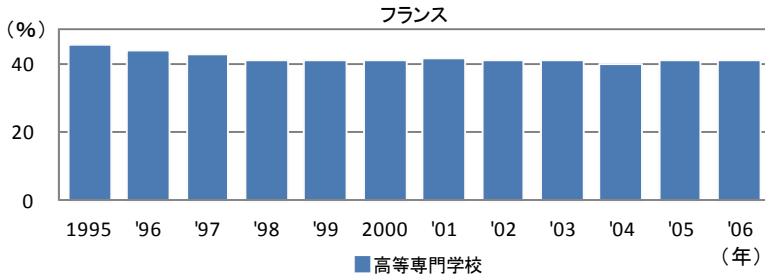


- ▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第8-1-3表 高等教育機関への進学率:イギリス」(p.238)参照。

8 教育・職業能力開発



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第8-1-4表 高等教育機関への進学率:ドイツ」(p.238) 参照。



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第8-1-5表 高等教育機関への進学率:フランス」(p.239)参照。

高等教育機関への進学率の国際比較は、各国の教育制度が異なっているため容易ではない。(第8-2表の各国の学校系統図参照)。ただし、上記のグラフをみると、各国とも概ね安定した推移となっていることがわかる。

日本の進学率は、1995年から2005年まで緩やかな上昇を続け、2006年になって0.4ポイント低下したが、2007年には再び上昇し、2008年には78.0%に達している。アメリカの進学率は、1998年及び2000年に60%を割り込んだものの、その後持ち直している。イギリスの進学率は2002年以降急上昇しているが、これは、1992年の継続・高等教育法による教育制度改革の結果、大学数が増加し、進学率が急増したためである。ドイツの高等教育への進学率は1990年代に30%前後で横ばいの推移を続けたが、2001年以降やや上昇した後40%弱で推移し、2006年には35%に低下している。ドイツの進学率は諸外国に比べて低水準であるが、ハウプトシューレや職業学校、職業上構学校など職業教育機関はここには含まれていないことに留意が必要である(「第8-2-4表 ドイツの学校系統図」参照)。また、フランスの進学率の算出基礎となった数値についても、複数の教育機関に登録されている者の数が未公表であること、通常の在学年齢以外の学生が相当数含まれていることに留意が必要である。